

平成27年度 第4期 第11回「耕人塾」

[日 時] 平成27年10月17日(土) 18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学2号館 2階2205教室・2206教室

[使用したテキスト]

・『耕人』H27 8.pdf(塾長から塾生へのメッセージ:第8号)

[活動内容詳細]

18:30 開会の挨拶及び趣旨説明(木村塾長)

耕人第8号 「平成27年度 第4期『耕人塾』を振り返って」

『人間という奇跡を生きる』

※丸山三枝子さまから百万円の寄付が耕人塾に寄付されたこと(新聞記事参照)と感謝の意味を込めて耕人塾から「感謝状・塾生からのお礼の手紙・修了式の写真・心ばかりの石巻の名産」を添えてお送りしたいとのお話があった。

18:40 第4期耕人塾を振り返って【75分】

話し合いの形態:個(15分)→ペア(5分)→班(15分)→全体(40分)

問1 耕人塾で得たもの

・班活動を通して

・講師の話を聞いて

問2 耕人塾で自分自身が成長した点。

・耕人塾が自分自身の成長にどうつながったか。

問3 耕人塾の活動を通して考えた「世界に誇れる石巻地域」の姿

【一人ひとり 1年間の活動を振り返る】

【一人ひとり、全体で発表する】



【ペアでの確認後、班で発表】



18:55 講評(田中運営委員長)



19:00 修了書授与



20:20 木村塾長より

20:20 写真撮影



20:30 閉会

【塾生の声 抜粋】

問1 耕人塾で得たもの。

- ・先生の話とか意味が分からないことを、自分で考え理解するように努め、友人に伝えたいと思うようになった。
- ・人間の可能性、夢、協力性、チャレンジ精神、感謝する心
- ・みんなと協力して成し遂げる達成感。

問2 耕人塾で自分自身が成長した点。

- ・人に任せるのではなく、自分から進んで行動すること。
- ・人の立場になって考えることができるようになった。
- ・視野が広がった。先を考える力。
- ・考察力や考える力が伸びた。
- ・話し合いに自ら参加したり、自分の意見を述べたりすることができるようになった。

問3 耕人塾の活動を通して考えた「世界に誇れる石巻地域」の姿。

- ・人とのつながりを大切にし、礼儀・挨拶が素晴らしい心地よい街
- ・ゴミが落ちていない綺麗さはもちろん一人ひとりがきれいな心を持つ地域
- ・当たり前のことを極める。

清掃作業でコツコツためた100万円

被災地の人づくり後押し

耕人塾に 寄 付 来月、塾から感謝状

東日本大震災の被災地で地域の未来を担う人づくりに役立ててほしいと、川崎市のビル清掃員丸山三枝子さんが、清掃作業に汗を流しコツコツとためた100万円を、地域社会に貢献する人材育成に取り組む石巻専修大の「耕人塾」に寄付した。夫が早世し、女手一つで1男1女を育て、老後のために蓄えた貴重なお金。木村民男塾長は「被災地に対する心遣いに頭が下がる」と話し、塾生の感謝のメッセージと感謝状を届けることになっている。

川崎の丸山さん(72)

丸山さんが勤務するビルは、元東松島市矢本一中校長の千葉和彦さんの義兄が所有。千葉さんが矢本一中校長時代、東松島市の教育長を務めていたのが木村塾長という縁もあり、石巻地方の高校生や大学生を対象に、人間力を磨く講座を開いている耕人塾に寄付することになった。

丸山さんは「震災直後は何もできなかつた。自分は何とか生活できてい

るので、被災者のためになれば」と、懸命に働いて大切に貯蓄したお金を、耕人塾の口座に振り込んだ。

石巻専修大教授を務める木村塾長は「老後のためにためたお金だと思いますが、自分のためではなく、被災者のためにという思いがありがたい。国際理解など人材育成の



丸山さんに感謝の礼状を書いた木村塾長

ために有効に活用させていたたく」と感謝している。

耕人塾は本年度、「世界に誇れる石巻地域にしよう」をテーマに31人の塾生が学んでおり、12月12日に閉講式を迎える。

塾として、塾生の感謝のメッセージと感謝状を贈る計画だ。

石巻中学校長などを歴任した木村塾長は、児童生徒の「自主」「自律」「品位」を教育理念に掲げ、志を持ち世のため人のためになる人材の育成に取り組んだ。遠方から被災地を思い、利他の心で耕人塾に大金を寄せた丸山さんの思いは、木村塾長や耕人塾の理念にかなうものだ。



木村塾長(左)から修了証が1人ずつ手渡された

人間力養成
「耕人塾」

笑顔心掛け街を美化

6回以上参加 4期生に修了証書

石巻地方の中・高校生を対象に6月に始まった人間力育成講座「耕人塾」の2015年度最終講座と第4期修了証授与式が12日、講座を開設する石巻専修大であった。

最終講座で成果発表

最後の講座では5班に分かれ、①塾で得たもの②自分自身が成長した点③活動を通して考えた「世界に誇れる石巻地域の姿」を考えた後、一人一人が発表した。「さまざまな人の話を聞いて広い視野ができた」「誇れる姿は、思いやりのある石巻。笑顔をいつも心掛ければ、街に汚れはない」などの意見があった。

受講生は31人。今期あった11回の講座のうち、6回以上参加した25人に木村民男塾長(石巻専修大人間学

部教授)が修了証を手渡した。木村塾長は「自分が高まらないと人のためには働けない。人間力を磨いて地域に貢献してほしい」と期待した。

4期連続参加は石巻好文館高3年の高橋倫平君と、仙台育英高2年の宮本愛与さん。宮本さんは「協力する気持ちとチャレンジ精神を持てるようになった。以前は言うだけだったが、今は、みんな意見を聞き、まとめ役ができるようになった」

と成長した様子を述べた。

今期のテーマは「世界に誇れる石巻地域にしよう」と世界に誇れるあいさつ・清掃・ゴミ拾い」。身近な地域環境に目を向けて美化活動に取り組んだ。班ごとにJ・R石巻駅や女川駅、仮設団地周辺などで行った。国際理解の講話のほか、座禅体験学習と礼法の実践を盛り込んだ宿泊研修もあった。